

NewsLetter

自治医科大学地域医療オープン・ラボ



僻地医療の中での貴重な発見

☆推薦文☆

増子遼介先生、論文のアクセプトおめでとうございます。先生とのやり取りを振り返ったところ、2022年3月、患者さんが外来を受診された当日に相談を受けていました。希少例であり、当初から症例報告としてまとめることを念頭に、検査や治療方針について話し合ったことが懐かしく思い出されます。ZOOMを利用して、骨折の部位や形態をもとに骨折を生じた背景を推理していくというのは、整形外科医としてとても興味深いプロセスでした。翌年の日本骨折治療学会での発表を経て、今回のCureus誌への投稿、リバイス、そしてアクセプトに至る道程を二人で踏破できたのは、先生を整形外科医の道に引き込んだ私にとっても大きな喜びです。義務年限を終えた増子先生、これからの活躍を楽しみにしています。

福島県立医科大学医学部東白川整形外科アカデミー 箱崎道之

増子 僚介(福島県 35期卒業)

福島県35期卒業、増子遼介と申します。この度、2023年9月末まで勤務していた福島県立南会津病院で経験した症例について報告させていただいた論文がCRSTのご支援のもと、“Atypical Fracture of the Scapular Spine: A Case Report”¹⁾としてCureus誌に掲載されましたため、この場を借りて報告・御礼させていただきます。

私の長い義務年限中のほとんどを働いていた福島県立南会津病院は、3町1村からなる南会津地域をカバーする2次医療機関です。3町1村といっても2,342km²、ほぼ神奈川県と同程度の面積であり、その中に24,263人(令和2年度国勢調査より)が住んでいます。同病院にて唯一の整形外科医として勤務していました。外来と病棟管理がメインで、ほぼほぼ骨粗鬆症、腰痛・膝痛・肩痛の診療を行っていました。それまで整形外科は2人以上で勤務していましたが、2020年から私一人体制となりました。それでも外傷(上下肢の骨折全般、たまに脊椎外傷)や鏡視下腱板修復術、人工肩関節置換術、人工股関節置換術などを中心に手術を行っていました。

今回の論文に至った経緯ですが、後期研修で勤務していた会津中央病院 外傷再建センターにて非定型骨折について多く経験する機会があり、日本語ですが論文^{2,3)}を書かせていただきました。勉強する中で、非定型骨折はビスホスホネートやデノスマブなどの骨吸収抑制薬の長期使用にてリスクが高くなること、下肢長管骨だけでなく上肢にも生じる可能性があること、診断には米国骨代謝学会が示した非定型大腿骨骨折の基準を用いると診断しやすいこと(特徴はもっとたくさんあります)がわかりました。

今回の症例はたまたま救急外来で内科の先生が受けてくださった患者さんで、ズボンを挙上させたときに左肩痛を自覚した、という病歴でした。外傷なし、横骨折、両側骨皮質を貫通、粉碎なし、骨皮質の限局的肥厚という、先ほど提示した米国骨代謝学会が示した非定型大腿骨骨折診断基準の大項目のすべてを満たしていたため、非定型骨折と診断をすることができました。しかし、私が今まで調べた文献の中に非定型骨折が肩甲骨



におきると記載されていたものはありませんでした。PubMed で検索すると、1 例のみ症例報告で論文⁴⁾になっており、本症例同様の X 線画像が記載されていました。そこで自信をもって非定型肩甲骨骨折と診断することができ、世界で 2 例目の症例を発見した！と、とても興奮したのを今でも覚えています（その後と同様の論文が私たちの論文より先に 1 例報告され、世界で 3 例目となりました笑）。

指導いただいた箱崎先生には診察した当日に連絡を差し上げ、健側や好発部位の病変検索を単純 X 線で行うこと、採血で骨吸収・骨形成マーカーを経時的に測定することや利き手・利き足、生活様式・日常歩行動作などについて患者さんへ聴取するよう詳しく指示をいただきました。また、論文作成にあたっては自分が肩関節を専門としていることもあり、リバース型人工肩関節置換術に対する肩峰・肩甲棘骨折についての知識が少なからずあったことが幸いでした。先行論文では保存療法で治ったとありましたが、結果的に本症例は偽関節となりました。患者さんは超高齢で、疼痛も落ち着いたこともあり手術治療を希望せず、現在も後輩により外来フォローされています。本症例について最初に箱崎先生に報告させていただいてから、骨折治療学会での発表、論文執筆に至るまで事細かくご指導をいただき、同時に諸々と大変ご迷惑をおかけしましたことを反省しております。



FIGURE 2: Radiological findings at the patient's initial visit.
Plate radiography (A) and CT B, axial view; C, anteroposterior view of 3D-CT; D, coronal view of 3D-CT) shows a transverse fracture (arrows) of the scapular spine. B, the alignment is almost normal, and a break was formed at the scapular neck (arrowhead).

本症例の単純 X 線・CT 画像¹⁾



Figure 1: Atypical scapular fracture associated with long-term bisphosphonate use

論文に記されている画像⁴⁾…全く同じ！

最後に、今回ご指導をいただいた箱崎道之先生には、研修医の際に整形外科に誘っていただいてから、日々の診療や僻地勤務先での手術に関してもたくさんサポートをいただきました。箱崎先生の後輩への思いやりは素晴らしく、いつも優しい言葉をかけていただき、大学時代の後期研修もなんとか切り抜けられました。また、いつも困った症例のご相談や論文のご指導について、快く引き受けていただいている箱崎先生のご尽力に対して厚く御礼申し上げます。

1) Mashiko R, Hakozaki M, Kaneuchi Y, Nikaido T, Matsumoto Y. Atypical Fracture of the Scapular Spine: A Case Report. Cureus 2024 May 13; 16(5): e602372) 増子遼介, 伊藤雅之, 畑下智, 佐藤俊介, 水野洋佑, 紺野慎一. 大腿骨転子下骨折に対する small plate を用いた先行固定法. 骨折 2020; 42(2): 555-560.

3) 増子遼介, 畑下智, 伊藤雅之. ビスホスホネート使用歴のない患者に生じた非定型尺骨骨折に対して再々手術まで要した 1 例. 骨折 2023; 45(2): 724-730.

4) Haque S, Pandey R: Case report of bisphosphonate-associated atypical scapular fracture and brief literature review. Int J Shoulder Surg. 2016, 10:92-93.

[発行]自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7476/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>